

MIGA コラム「新・世界診断」

## 日系人の重要性と課題

武蔵野大学国際総合研究所 特任教授  
梅田 邦夫

### はじめに

3月、国賓として来日したルーラ・ブラジル大統領夫妻を歓迎する宮中晚餐会において天皇陛下は日系人に関して、次のように述べられた。なお、この晚餐会には、数名の日本在住日系人も招待された。

「祖国日本を遠く離れ、ブラジルに移住された方々とその子孫である日系人の方々は、ブラジル社会の発展に大切な一員として貢献してこられた。その背景には、日本人移住者を温かく迎え入れたブラジル政府と国民の御厚意があったことを忘れることはできません。大統領の国賓としての訪日を歓迎する晚餐会に、これまで両国の友好関係の増進に寄与されてきた日系ブラジル人の方々が出席されていることをうれしく思います。

日本とブラジルは、長年にわたって様々な分野で協力してきました。持続可能な開発の分野では、ブラジル北部において、日系農家の方々が胡椒や熱帯果樹、樹木栽培を組み合わせた森林農法を開発され、今日まで引き継がれています。また、広大なサバンナ地帯で、「不毛の大地」と呼ばれていたセラードを農業地帯として開発する過程では、日系人やJICAを含む多くの人々が尽力され、ブラジルが今や世界に誇る食料供給国となっていることを喜ばしく思います。」

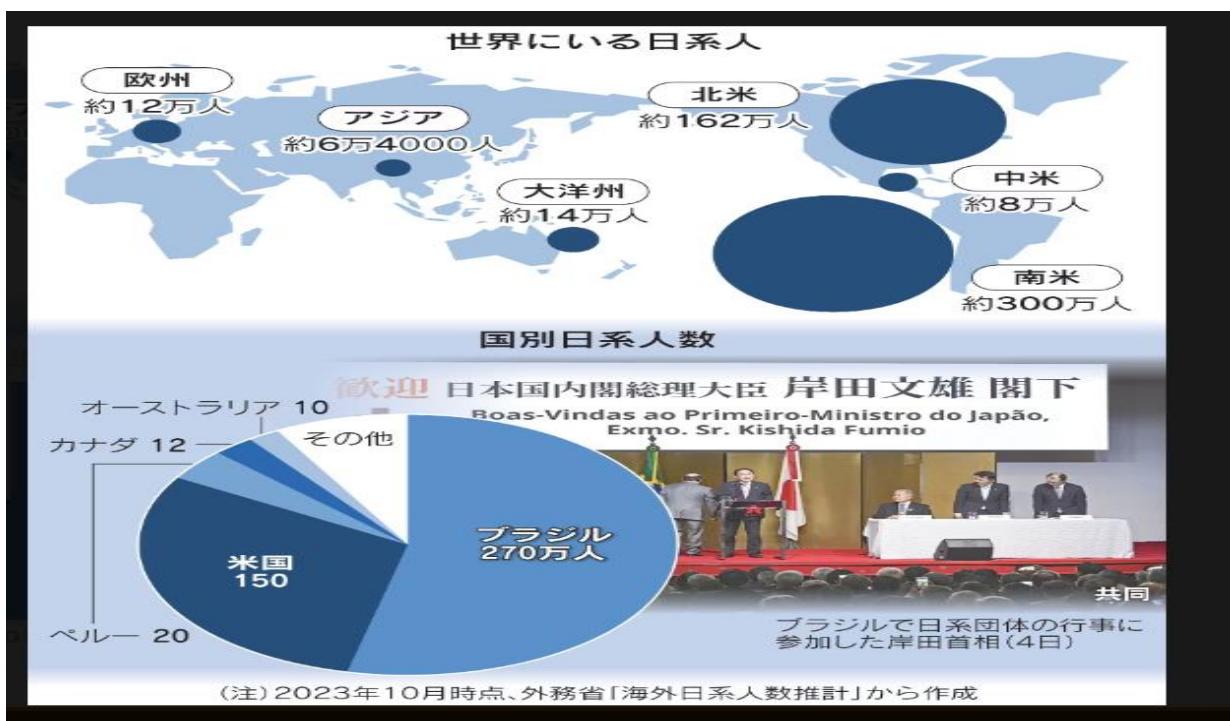
6月には、佳子内親王殿下がブラジルを2週間近く訪問、首都ブラジリアでルーラ大統領夫妻を表敬されたことに加え、ブラジル各地で日系団体と交流された。このように皇族の日系人及び日系社会に対する思いは、とても温かい。

しかしながら、現在の日本では、人口減少・少子高齢化、労働力不足の深刻化を背景に、ベトナム人、フィリピン人、インドネシア人等の「アジア人材」に対する関心は年々高くなっている一方で、日本在住の日系人に対する関心は低くなっている。日系人の日本にとっての重要性について理解を深め、少しでも関心を高めていただければ、ありがたい。

## 1 世界の日系人は、約526万人

24年4月、外務省は、海外に居住する日系人の総数（除く日本）が、約500万人（23年10月時点）と公表した。

これに加え、外務省の調査対象に入っていないが、日本には約26万人の日系人が居住しており、世界で3番目に大きい日系社会が存在する。なお、08年当時、日本には約38万人の日系人が住んでいたが、金融危機後の不景気で多くが失業し、約4割の人が助成金を得て帰国を余儀なくされ、数年間再入国を許されなかった経緯がある。



（日本経済新聞社作成）

ブラジル約270万人、アメリカ約150万人、ペルー約20万人、カナダ約12万人、豪州約10万人、メキシコ約7.9万人、アルゼンチン約6.5万人、英国約2.9万人、ドイツ約2.5万人、フランス約2.5万人、韓国約2.2万人、ミクロネシア約2万人、ボリビア約1.3万人、フィリピン約1.3万人等。

## 2 調査は外務省領事局が実施

外務省やJICAは、中南米や北米の移住者について、移住の歴史や各国における活動等をフォローしているが、世界全体（含む日本）の日系社会を横断的に見て、どのように連携を強化すべきかを考えている人や部署はない。私自身、20-23年の3年間、外務省参与

(中南米日系社会との連携担当大使) を務めたが、担当はブラジル等の中南米日系社会のみであった。

ただし、在日外国人数が増える中で、日系人を含む外国人子弟の教育問題などへの関心が高まっていることから、在日ブラジル人等について外務省やJICAもフォローするようになっている。

### 3 日本にとって日系社会は「貴重な財産」

人数から判断して中南米・北米地域が中心にならざるを得ないとはいえ、世界に散らばる日系社会は、日本にとって「貴重な財産」である。

例えば、戦前日本人が出稼ぎに行っていたフィリピンには日本人の子孫、また、日本軍が駐留していたインドネシア及びベトナムには残留日本兵の子孫がいる。

23年5月、私は外務省の依頼を受けて、福島原発「処理水」の根回しで、パラオとマーシャルを訪問した。パラオの首相は、日本を信頼しており、日本を支持すると述べ、同席した外務大臣は、日系人ではなかったが日本人の氏名を有していた。また、マーシャルでは11人の閣僚中、7名が日系人であった。

戦前、パラオ、ミクロネシア、マーシャルの3カ国は、日本が国際連盟の信託統治をおこなっていた地域であり、3か国でこれまでに7名の日系人大統領が誕生している。

### 4 豪州や欧州には、婚姻を通じて各国に住み、子供を育てている方が多い

これらの方の存在は、日本にとって「貴重な財産」として意識されていないが、例えば、パリ五輪BMXレーシング・金メダリスト・榎原サヤ(豪)、スケートボード女子パーク・金メダリスト亞理紗・トルー(豪)、銅メダリストスカイ・澄海・ブラウン(英)の母は日本人であった。また、ブラジルのパリ五輪代表チームには、スケートボード・銅メダリスト・アウグスト・アキオ(日系3世)の他、数名の日系人選手がいた。

### 5 政府は日系社会との連携の在り方をグローバルな視点で考える人や担当部署を決めるべき

国際情勢が歴史的転換期を迎えており、例えば、大洋州や南シナ海を取り巻く国々は、米中覇権争いの最前線でもある。政府は日系社会との連携の在り方をグローバルな視点で考える人や担当部署を決めるべきである。

また、横浜の「JICA 移住資料館」の展示、「海外日系人協会」の関連資料などでは、北米・中南米以外の日系人については触れられていない。南太平洋や東南アジア、ヨーロッパの日系人にも関心を払い、展示内容への工夫が必要ではなかろうか。

## 6 日系人の日本への貢献

各国の日系人は次のような様々な形で「日本の国益」に貢献している。我々は、この点をよく認識し、日系人との連携・交流を大切にしなければならない。

### (イ) 日本と移住先国との大きな架け橋

多くの国において日系人は、「強い信頼」を勝ち得ており、「親日感」と「日本への信頼感」を生んでいる。彼らは日本と移住先国との間の大きな架け橋である。

24年ルーラ大統領は岸田総理到着前の日本人記者団とのインタビューで、「ブラジルは世界で最も多くの日本人移民を受け入れており、懸命に働き続けた日系人に対して多くの感謝の念を抱いている。ブラジルが今日のような国になるために、日系人がどれほど貢献したか私たちは知っている」と語った。

24年に逝去されたフジモリ元ペルー大統領が、治安回復、人種差別克服に果たした役割はとても大きい。

南太平洋諸国などにおいても日系人は、政治・行政、農業、法曹、医学、教育、ホテル・料理店経営などあらゆる分野で活躍している。

### (ロ) 日本文化普及の担い手

ブラジルには、436の日系団体、380校の日本語学校がある。これらの団体は、日本語、日本食、アニメや漫画など日本文化の普及に努めている。

他の中南米諸国、北米においても同様である。

### (ハ) 日本が困難に直面した時の支援

終戦直後、深刻な物資不足に苦しむ日本に対し、米国の「アジア救済公認団体」(略称 LALA)から食料、衣料、医薬品など大量の救援物資(400億円相当)が届けられた。内20%は南北アメリカに居住する日系団体からの寄贈であり、粉ミルクは学校給食の開始に寄与した。

最近では、東日本大震災、熊本地震等の被災者に対し義援金を提供、また、福島処理水問題

題、歴史問題などでは、日本を支援してくれている。

## (二) 人口減少に苦しむ日本への貢献

日本には、世界で3番目に大きな日系社会が存在し、製造業への貢献は非常に大きい。個人としてもスポーツ選手・評論家（セルジオ越後など）、宗教家（大谷暢裕・真宗大谷派門首）、大学教授（アンジェロイシ・武蔵大学教授等）、経営者（斎藤俊夫等）、弁護士（照屋エイジ等）、行政書士（井手口睦美等）、エンジニア（オオルイ・ジョアン等）、落語家（ラムネさん）、美容師等の人材を輩出している。

## 7 日系4世への配慮の必要性について

(イ) 日系二世・三世および家族は、1990年より入国時から定住者としての訪日が認められてきたが、日系四世については、単独で長期滞在できる制度が18年までなかった。新制度では、年間4千人の枠があったが、条件が厳しく、22年末で、日本に滞在している四世（ブラジル、ペルー、フィリピン）は128名のみであった。

(ロ) このような惨状を前に、関係団体からの強い要求を受け、日本政府は日系4世（架け橋人材）受け入れ制度を見直し、23年12月末から運用開始した。それから、一年半以上経過したが実績は上がっていない。25年6月時点で約200名のみである。それが故に、日系社会からは、「日本は、日系社会を「日本の財産」とかいうが、4世の扱いを見ていると、最早日系人を重視しておらず、日系人に訪日してほしくないので、厳しい条件を意図的に付けているとしか思えない」との批判がでている。このままでは、日本と日系人との「心のつながり」が疎遠になる恐れが高い。

日本政府が日系人の要望をよく踏まえ、日系人を温かく迎える姿勢（例：家族帯同が可能となる定住者資格への変更時期の短縮など）を示すことが不可欠である。

## 8 在留外国人の選択

最後に、外国人定住者・永住者等は今後増加すると思われるが、外国人の選別、場合によっては、国別人数制限も重要と考える。反日教育を受け、日本の法律・文化や日本語を尊重する気もない人材は、好ましくない。

他方、祖先を共有する日系人については、入国前研修（日本語、日本の教育・社会保障制度等）を受けることを前提に、優先されるべきである。

現在、外国人材共生支援全国協会（NAGOMi）・副会長、海外日系人協会理事、

中曾根康弘世界平和研究所・副理事長など

(了)

以上

### 著者紹介

#### 梅田 邦夫 武蔵野大学国際総合研究所 特任教授

京都大学卒、1978年外務省入省、外務省人事課長、南部アジア部長、国際協力局長、ブラジル大使、ベトナム大使、現在：中曾根世界平和研究所・副理事長、外国人材共生支援全国協会（NAGOMI）副会長、日系人協会理事、NIDEC社外取締役、日本サッカー協会国際委員、武蔵野大学国際総合研究所特任教授、

外務省時代に担当した主な業務：

慰安婦問題、フィリピン残留日本人国籍回復問題、米国同時多発テロ、外務省不祥事、外務省改革、拉致問題、北京オリンピック、チベット暴動、四川大地震、冷凍毒餃子事件、新疆ウイグル暴動、ミャンマー民主化、ブータン国王夫妻の訪日、対中援助見直し、FIFAワールドカップ・ブラジル大会、秋篠宮殿下ご夫妻ブラジル訪問、リオ・オリンピック・パラリンピック、安倍総理ブラジル来訪2回、天皇皇后両陛下ベトナム訪問、ベトナム残留日本兵ご家族、安倍総理ベトナム来訪2回等

主な著書：

『ベトナムを知れば見えてくる日本の危機』小学館（2021年）、『ブラジル日系人の日本社会への貢献』東京図書出版（2023年）、『こんなに違う中国とベトナム』w e d g e 五月号（2021年）、『頼りになる友邦 ベトナムの実情』正論八月号（2021年）等

